

グローバル教養海外実践（イタリア）に参加して

刑部瑞希

私は今回の研修で主に2つの事が良かったと考える。1つ目はイタリアの文化に英語で触れることが出来た事だ。イタリアは、ただ観光に来ただけでも十分楽しめるがやはり旅行とは違い、英語でのガイドをつけてくれた事が大きかった。ガイドで、イタリア英語やアメリカ英語などタイプの違う英語を聞くことにより、実践的な英語を体験出来たことに加え、多彩かつ魅力溢れるイタリアの彫刻や建物についての知識を得られたのは貴重な体験だった。特にバチカンの美術館では人生で一番集中して英語を聞き取ろうとした。有名な作品が多く、大体その作品がどのようなものか事前に知っていたため、ガイドの内容が理解しやすかった事が大きかった。また、本当に集中して話を聞こうとするとニュアンスや単語だけで話の内容がざっくりとわかる事に気付けたのがとても嬉しかった。私は元々、世界史が好きで高校の時からヨーロッパの芸術や歴史に興味があったため、バチカンの宗教が絡んだ歴史やルネサンス時代の芸術について学べたことは最高の体験だった。日本に帰ってからルネサンスについて自分で学術書を探すなど、新しい分野の本を読むきっかけにもなった。

2つ目は自由行動ができたことだ。自由行動の時間にテーマである織物の生産についての調査をおこなった。自分の足で工場を訪問し説明を受けた。他にも買い物に自由に行くことが出来たため、イタリアの華やかで独特な雰囲気のあるカーニバルのお面のお店や有名な革製品のお店をゆっくりと周ることができた。学生交流が無かったのは少し寂しかったが、日本とは全く違う街並みは正に異国に来た、という感じで研修中ずっと飽きる事が無かった。

私にはこの10日間という短い期間を通して決意したことがある。それは他国や自国の歴史を学びなおすことだ。GLEPの日本の歴史や文化を学ぶ、という授業でも感じていたのだが、歴史は本当に奥深く、学ぶことが楽しいのに加え自分の物の見方や考え方が広がるきっかけになった。私は今回の研修で知識を得たいという気持ちが更に大きくなった。これから先、私は英語を活用する仕事につきたいため外国の方と関わる機会が増えると考えられる。その時に自分の生まれ育った国について愛をもって話せるようになりたい。そのためにはやはり歴史を知ることが大事だと考える。実際にこの研修中もツアーガイドの方ほとんど全員に、「日本人？」と聞かれ「日本の～に行った」など日本についての話題を彼らは話そうとしたし、私たちからおすすめの場所などを聞こうとした。しかし、私は彼らの英語を理解することで精一杯でとても自国についての話をする余裕がなかった。やはり日本人として自国について外国の方に説明することぐらいは出来るようになりたい。そして外国の方に対してもその人の国について知っておくことは必ずプラスになると思う。その人が生まれ育った環境や文化について知っていれば、仲良くできるであろうし、逆にその人にとって触れてはならないことにも気づけると思う。私は今もう一度高校の時の世界史と日本史の教科書を一日に読むページ数を決めて読んでいく。これを続けていくことで自分の見識を深め、英語で他の人に説明できるようになりたい。